

【議事内容】

(司会)

それでは、みはら歴史博物館管理運営事業について審査をはじめさせていただきます。まず、はじめに、事務局から当事業についての課題・論点の提示をお願いします。

(事務局)

みはら歴史博物館管理運営事業につきましては、効果的・効率的な施設運営のあり方や、ホール機能等の有効活用策等について、を主な論点として、ご議論・審査をしていただきたいと考えております。

(司会)

それでは、15分で事業の説明をお願いします。

<所管課からの事業説明>

<質疑>

(司会)

ありがとうございました。

それでは、検討委員の方々と市の方と、担当の方と意見交換をしたいと思えますけど。

(赤津委員)

意見を言っていていいですか。

ちょっと教えていただきたいのですが、先ほどNPOの、NGOですかね。

(所管課)

はい。

(赤津委員)

ええ。この鋳物。

(所管課)

はい、河内鋳物師顕彰会さん。

(赤津委員)

鋳物師顕彰会さんという、NPOの団体の協力、サポートが大きいというお話だったのですけれども、ちょっと具体的なイメージがわからないものですから、例えば地元の高校の先生とか学者の方とかそういうことなのか、その中身を教えていただきたいというのが一つと、やはりこの特色としてこの河内鋳物師の歴史であるとか、黒姫山古墳の歴史であるとか、そういう地域に密着、美原のこの地域の歴史と文化というのがこの博物館の特色なのだろうと思うのですが、一方でこういう地方の教科書に載ってこないようなこの歴史というのはやっぱり調査研究もなかなか進んでいない部分も多いのではないかなというふうに思っています、そうすると、いろんな発掘であるとか、調査研究、文献資料の調査研究であるとかお金も要るだろうと思えますし、あるいは教育委員会さんのほうとの連携であるとか、そういうのも必要なだろうと思うのですが、この博物館を取り巻くそのNPOさん、それから文化観光の担当だけじゃなくて、教育委員会とかそういうほかの部局との関係とか、その調査研究にこの博物館の展示物を裏づけるような調査研究、或いは今後の発展を支えるような調査研究の予算はどうなっているのかなというのを教えていただけますでしょうか。

(所管課)

まず、御質問が幾つか多岐にわたっておりますので、私も全部答え切れるかどうかわかりませんが、顕彰会さんは当館をいろいろサポート、開館以来していただいているのですが、事業的にはある程度、いわゆる精神的なサポートの部分がそれなりにございます。もちろん展示、美原町時代に直接展示を河内鋳物師の展示を構成するに当たりましては、いろいろ展示物の面なんかでもサポートをしていただいたと、私は当初からおりませんので、それはもうそういうふうな前任者等からの申し送りで聞いておる限りでございますけども、あとさまざまに研修会などもやられております、講座なんか。そういうときにも私どもの学芸員なんかも出させてい

ただいてというふうなことも過去にはあったということで、今現在はそういうふうにしております。

我々の特にこういう河内鑄物師、黒姫山古墳についての調査研究ですね。この体制につきましては、正直言います、なかなか予算措置もそう簡単には、もう今ほかの部局も含めまして簡単にはいかない部分なので、ある程度学芸員の地道な努力といいますか、そういった部分とそれからそれなりのネットワークをやはり持っておりますので、ネットワークに基づいてそういう研究者の方々と交流していったら、具体的な成果を見出していくと。特に黒姫山古墳の甲冑にしましては、これはまだまだ研究者の数が少ない分野のようなのでございますけれども、その中でも一応、もともとこの地域にお生まれになった方で、今鹿児島大学の先生をされておられるのですが、その方が第一人者という意味合いのぐらいの方なのですが、やはりもっと甲冑については知らしめなければならない、先ほど見ていただきましたように、24領という、本当に全国にも他にないような、これだけで人を呼べると、24領どころか1領、2領でもまちおこしができるのに、24もあって、もっとできることがありますよねみたいな話もしていただいているのが現状でございます。ですから、そういう先生方の助言を受けて我々なりに自助努力をできるだけしていくのが今の現状でございます。

あと教育委員会の話が出ましたけれども、御存じいただいているかと思いますが、現在は私ども市長部局のほうに所管をしております、教育委員会とはいろんな意味での交流はございますけれども、直接的な意味では過去の流れも踏まえまして、さまざまに協力関係を持たせていただいているかというふうには理解しております。

完全に答え切れていないところもあるかと思いますが、再度もしお尋ねいただけるようでしたら、改めてお答えさせていただきます。

館長にかわります。

(所管課)

河内鑄物師の顕彰会でございますけれども、平成元年に河内鑄物師顕彰会を設立されました。そして平成14年にNPO法人を取得されて今日までの活動に至っていると、補足させていただきます。

(司会)

はい、どうぞ。

(下村委員)

今の教育というところの視点からなのですけれども、今、日本は文科省とそれから環境省も含めてESD教育というのを推進していますね、持続可能な開発のための教育というのを推進しているわけですが、このESD教育の視点から見ても、地域のことを深く学ぶというのは非常に重要なことで、今、日本全国の自治体の中でも本当に地域のルーツであるとか、その背景であるとか、そういうことを子供たちに知ってもらうことによって、堺でもおっしゃっていますけれども、地域に愛着を持って誇りを持って、たとえ一時大学時代に外に出ていったとしてもまた地域に戻ってずっと住み続けたいと思えるような人づくりというのを熱心にされている自治体が増えてきました。そういう意味では地域の歴史を知る、知ることができる場所というのは非常に大事だと思うのですが、しかしながら、ただ展示を見てそれを子供たちが感じとったりとか、本当に愛着を持つようなものになるというところにまではやっぱりプロセスが必要で、そのプロセスをつくり出していくということがつまりここに書かれている事業の目的ですよ。より一層郷土愛をはぐくんでいけるようになるというところに繋がっていくのではないかなと思うのですが、その事業内容自体がミニ展示、コミュニティーのCの部分は市民の方たちが一生懸命いろんなことをされていると思うのですが、ミニ展示以外に何かそういった学芸員さんが子供たちを連れて館内ツアーをすとか、いろんな多分方法はあると思うのですが、何かそのようなことにチャレンジされているというのはあるのでしょうか。

(所管課)

現在、私どものほうでいわゆるMの部分ですね、ミュージアムの部分で、そういう活動で具体的にやっておりますのは先ほど申し上げておりますミニ展という形、いわゆる企画展ですね。それから、あとは企画展の開設は、これは一般市民の方を対象にしてということをやっております。特に小中学生対象という形ではございません。

あとパワーポイントにもございましたように、いわゆる体験講座として、ちょうど今鑄物の講座を夏休みということもありまして、募集しております、これはもうすぐ満員になってしまっていて、追加をもう一回しようかというぐらいの、それなりの盛況な状況で、特に小学生、中学生の方なんかたくさん応募していただいておりますので、そういった形での現在はコンタ

クトをしているところではございます。

今先生がおっしゃいましたような意味での例えばミニツアーであるとか、或いはこちらから伺っていくというふうな形でのコンタクトというのはまだまだ残念ながら今日的には果たせていない部分ではございます。

(下村委員)

この歴史文化の中に例えば地域の背景があつての、歴史の背景があつての、何か市井の人たちの文化みたいな、そういうのっていうのは入っているのですたっけ。それは入っていない。

(所管課)

市井の方々というのをどのような観点でとらえるかというのがまずあるのですけれども、常設展示の中にそういう、いわゆる鋳物師たちの活動しておりました一種のコロニーですね。そういう部分の模型での紹介とか、そういったことはいたしておりますが、それが先生の今の御質問に当たるのかどうかわかりません。まだまだそういったところは不十分かというふうには思っております。

(宇澤委員)

この前もお聞きしたのですが、コストの状況ですけれども、行政はこういうものをどういふような計上をなさっているのかわからないのですが、この事業費の中に展覧会の費用も含まれていると、この間おっしゃいましたよね。

(所管課)

はい。

(宇澤委員)

この内訳がその項目はないのですよね、展覧会等のこの費用は幾らかかっているかというのね。ありますか。そしたら教えていただけますか。

(所管課)

はい。

(宇澤委員)

それから、報酬はこの前お聞きしたらOB等とおっしゃっていましたよね。これはここに入れるのか、この内訳の中にOB等というものは入ってないですよね。この辺は少し御説明をいただきたいということです。前回とだぶっていても結構でございますので、もう少し詳しくお聞かせいただきたい。

それから、先ほどコミュニティーの部分で、市民が文化活動をこれは活発にやっていきたい、或いはこうしてやっていますという御説明をいただいているのですが、この市民の文化活動を引き出すというか、推進するために、当然館主導になってやるのか、或いは区域の方々が自発的にかかわっていらっしゃるか、或いは第三者的に業者の方がこれを利用していろんな催し物をなさっていらっしゃるか。そういうようなことも含めて、この文化活動を具体的にどういふ御計画でお進めになっているのかお聞かせいただきたいと思ひます。

それから、展示も見せてはいただいたので、まあよくできているとは思ひますが、先ほど下村委員もおっしゃった観点からすれば現代とのかかわりが大変薄いという気がいたしました。中長期的にこの展示、さらにどういふようにお考えになっていらっしゃるのか。もう十分とおっしゃられていたのですけれども、特に大変失礼なのですが、その評価指標の目標値が、私個人的には大変ゆったりとお考えになっていらっしゃるなど、果たしてこんな数字、目標値でいいのだろうかという気持ちがござひます。なぜかと申し上げますと、これだけの職員をおかけになって、この目標値ではいささか物足りないのではないかという印象を持っています。その時どなたか御質問なさっていましたけれども、小中学校の子供たちがどの程度来られるのかという質問があったのですが、バスも導入が難しいとかいふ御説明もあったかと思ひます。私確かに案内見て行ったのですが、本来ならわかりやすいところのはずが結構迷うのですね、お訪ねするには。表示板にも出るところにはどうもあるようなのですが、どうもわかりにくいという気がいたしました。しかも駅からは遠い、バスの便は悪いという状態ですよね。この目標値、この辺で抑えておくかというわけじゃないだろうと思ひますが、本当に小中学生が郷土にきっちり目を向けてもらうための施設であるならば、そういった施策を、先ほど先生おっしゃったように、教育委員会等も含めてお考えいただけるようなことはこれまで御検討なさったのかどうか、この多岐にわたりましたけど教えていただきたいと思ひます。

(所管課)

私のメモでわかる限りで順番にお答えしていきたいと思います。

まず、コストの件でございますけれども、事業シートの1枚目でございますね、21ページの表でございますけれども、勉強会といいますか、プレの時にはこの主な事業内訳の欄が少し少なかったもので、そこには含み込めておりませんでしたけれども、先生の御指摘もいただきまして、展示事業の項目はここで一つ挙げさせていただいております。それがまず一つと、その上の項目の、いわゆる報酬の部分が、これがいわゆるそのOB職員さんの部分でございます。一応、今現在3人の方がそういう位置におられて業務に携わっていただいております。これに関してはそれぐらいのところよろしいでしょうか。

(宇澤委員)

これは下の13のところにはそれは出ないのですかね。職員数のところ。

(所管課)

ええ。

(宇澤委員)

ここにはカウントしないのですね。

(所管課)

そうですね。はい。

(宇澤委員)

再雇用職員従事者数にはこのOBは入らないのですね。

(所管課)

はい、入りません。

(下村委員)

報酬のほうに入ってるのですね。

(所管課)

全部報酬と今下村先生がちらっとおっしゃられましたけど、いわゆる事業を主として従事していただくという形での報酬という形で推移しております。よろしゅうございますでしょうか。

それから、2番目のいわゆるコミュニティーに関する部分でございますけれども、パワーポイントの最後のほうでもちょっと見ていただきましたように、一応区と連携する形で幾つかの事業展開を、これまでしてきたのかというと、それほど多岐的にやっているわけでございませぬけれども、改めてやっていくというスタンスで今、区とも調整をしながら動いております。特に歴史ゾーン構想というのがございますので、そういったものとの見計らいをしながら、どうやっていわゆる人を呼び込めるような場所にしていけるかというのが一番の、正直なところ、課題として持っております。

ちょっと幾つか設問が飛びますけれども、ちょっと場所がわかりにくいというふうなことも、それと関連しまして、一応道路標識等も含めまして、歴史ゾーン構想の中でそういったものをきちっと位置づけていきたいというふうな思いといいますか、そういう提案なんかもしているところでございます。

それから、いわゆる展示の中身につきまして、今日性とのかかわりは非常に希薄だと、まさにそれは一番痛いところでございまして、河内鋳物師は残念ながら今もう美原地域では全くその痕跡もないと言っていいぐらい、それを引き継いでずっと来ているというふうな家系もございませぬし、ですから、我々的にも発掘でそれに類する物が出てきた時にそういったものができるだけ反映していくというのが現状でございます。ですから、こういう鋳物というものを取り上げまして、堺の旧市の中ではそれを伝統産業として位置づけていって、もう一回そこから新たなものというふうな発想で動いている部分があるかと思っておりますけれども、今のところまだそこまではできる体制というか、環境づくりにはなっていないというのが現状かなと、まあ細々と鋳物体験講座とか、そういったところで少しずつ輪を広げていければというふうな思いでございます。

それから、展覧会に関してですけれども、まあ指標が確かに低いことはもう認めます。現在、8

名おります職員の中で正規職員で学芸員が2名おまして、その2名の学芸員でもって一応展覧会等を構成してやっておりますので、今のところ、その3回ないし4回がちょっと限界かなというところで動かしていただいています。だから、このあたりはもっといわゆる外部の知恵なり、或いは他の施設との連携を図りながら動いていけるような、これは大きな課題として受け取っております。  
大体、5つぐらいの設問をいただいたかと思いますが、とりあえずこういうところがございます。

(司会)

はい、よろしいでしょうか。はい、どうぞ。

(寺田委員)

事前研修のときに、今年度の予算が1,000万で900万程。それで桁がちょっと違うので、この理由はどこでしたかねとお聞きしたと思うのだけど、理由をちょっとお聞きお願いできたらと、これが1点と、2点目が来場者の1人当たり、これ5,000円ですよね。

(所管課)

はい。

(寺田委員)

1人当たり5,000円ということなのですが、美原市の15年にできて以来、これぐらいずっとかけてられたのですかということなのですが。データございませんか。

(所管課)

まず、人件費のことがございますけども、10,468,000円の内訳につきましては、雇用形態の変更によりまして、再任用の方が再雇用になったということで、組合せの変更と。

(寺田委員)

委託料です。

(所管課)

すみません。

(寺田委員)

施設の維持の委託料が上がっていますよね、予算上ね。これ、結構1,500万。

(所管課)

大変失礼いたしました。

事業の増額でございますけども、今年につきましては都市計画道路というのが美原の博物館の前にごさしまして、その進入路の整備ということで400万円をあげさせていただいております。

(寺田委員)

委託料が100万近く上がっているよね。

(所管課)

はい。

(寺田委員)

例えば施設の維持管理の委託料が上がっているの、これがどこに原因があるのか、ちょっとお聞きしたかったということ。これだけではいつもわからないのですよね。それで、どんなのがあるのですか、どうして100万も上がっちゃったのですかと、まあそういうのが一つと、できたらずっと1人当たり5,000円入ればかかると、人件費も入りますからね、一概に言えないし、こういう文化というのは当然にしてお金の要るものですから、ずっとそうなのかなとちょっと気になりまして。

(所管課)

お答えさせていただきます。委託料につきましてはホールの施設の清掃委託管理、それから、

警備、機械警備、これはセキュリティーのものでございます。そして電気保守点検業務、電話、防火設備、それからエレベーターと自動ドアなどの業務内容となっております。ピアノの保守点検、それから舞台の装置の分ということも入っております。

(寺田委員)

そうすると、100万上がった理由はどうなります、100万近くですかね。予算なのでまだわからないのだけど、予算を立てる時にどういう根拠で100万高く上げはったのかなと思って。

(所管課)

今年度、この委託料の中には土地分筆の測量業務委託として90万円ほどを計上しており、それに該当いたします。

(寺田委員)

ちょっとぐっと上がっているからどうしてかなと思って。

(所管課)

はい、主にそういったところでございます。

(吉田委員)

質問を2つさせていただきたいのと、あと最後にコメント1つということできさせていただきたいと思います。

まず、質問の1つ目ですけども、類似の施設が堺市内にはある、美原区もあるということですが、それと、例えば集約とかができないというようなことについては具体的な理由がある、そういう根拠があって集約できないというのがあるのであれば教えていただきたいというところと、それから2つ目が、類似のその施設を何個か抱えているといった場合に、これもインフラの1つではあると思うのですが、それをまあ維持できるのか、中長期的に類似の施設もひっくるめてそのこのインフラの維持についてどういうふうな考えで臨んでおられるのかといった点をわかっていれば教えていただきたいかなというふうに思います。

Q1、Q2に関しては、何でそういうことを質問するのかと言いますと、私、今日の冒頭で日本はものすごく小さな政府なのですよというふうに申し上げましたが、今後の問題として言うまでもないですけども、少子高齢化の問題等もありますので、時系列的にどういうふうにコストを考えていくのかというのは、それはそれで考えなければいけないところなので、そういう質問をさせていただきたいと思っています。

まあ、質問が以上2つですけど、最後にコメントを1つですけども、そのコストを度外視して、度外視はしてないですけど、コストとはまた別の観点でコメント最後1つですが、他の先生方も御意見されていましたが、私はこういう歴史等々については、やっぱり日本人としていろんなことでそういう話もわかっていなければいけないかなというふうに思っています。この大阪府の南部というか、堺市には仁徳天皇陵もありますけども、ちょうどこのあたりというのは日本の成立の時の中心地だったわけですね。ですから、この黒姫山古墳という古墳ではありますけど、それはまあ仁徳天皇陵とか、そういう他のものとも絡めて、一環としてうまいこと歴史、文化を府民の方に知らしめていただけたらいいかなというふうに思います。その重要性のところをもう1つ言いますと、大阪には2つの面があるのですが、1つは昔から日本海海道であったり、瀬戸内海道が発達していて、流通の中心地であったという面と、その繋がり江戸時代以降天下の台所と言われている面があるのですが、もう1つは日本の黎明期において日本を成立させた、奈良と並んで中心地域であったと、そういう面があるのですが、今の大阪人というのは残念ながら後者の感覚が欠落しているところが多くて、何か短期的視野で物を考えるということが非常に多くなっているんで、そういう中長期的視野で物を見るという感覚を養ってもらうためにもこういう歴史、文化はやっぱり伝えていただきたいなというふうに思います。

今、グローバル化というふうに言われていますけども、実は世界に出ていった時には自分の国がどういう国かとか、地域がどういうものかとかわかっていないと、何も語ることがないと思うので、今の日本人はそういう傾向が強くて、そういう意味からもなるべくコストをかけない形でこういう事業は続けられるものなら続けていただけたらいいかなと思います。

最後は一応コメントです。質問は最初にお話しした2点です。

(所管課)

それではお答えをさせていただきたいと思います。

まず、類似施設の意味ですが、これはホールというふうに理解してよろしいでしょうか。

(吉田委員)

はい。

(所管課)

先ほども説明ございましたように、美原区役所の中に席数541のホールが現在あります。それと先ほども御説明しましたように、10年前にM・C美原が誕生して、その際に260という規模のホールを設置したと。経緯もさることながら、今いわゆる実態としては少しやはり興行的、また市民の発表会的な意味合いでの540と、それからやはり個人、または有志、グループでの使用の260ということで、小ホールと中ホールの一応の使い分けが美原区民を中心にした中でなされているのではないかと。一方、美原の区役所でのホールのほうは既に指定管理者を導入しておりまして外部にその形を、委託をかえておるといようなことでございますが、やはり美原の歴史文化の拠点であるこのM・Cのホールに関しても、今後、いわゆる直営ということをお前提には考えておりませんので、そのあたりに関しては、先ほど言いましたような、美原区にあるホールとの連携、そしてまたその経営の合理化、また統合みたいなものもしっかりと検討を進めていきたいと、そういう形で2つのホールを機能的、有機的にやはり動かすための方策をしっかりとつくっていききたいというふうに思います。

それとあともう1点のその中長期的なこのインフラとして、ここの施設に関するいわゆる投資の問題だと思っておりますが、それに関しましてもやはり、御承知のように、先ほども説明がございましたが、ここはあくまでも類似博物館ということになっておりまして、きちりとした形での博物館、認定した博物館では現在もございません。そういう面では堺市博物館との連携ということで、今組織的に私ども博物館の中にその機能を置いているわけでありましてけれども、この堺市博物館と美原がその資料収集をやってきたこういう作品をこれから今後どうしていくか、展示研究の部分で、それが1つの課題であろうと。もう1点はやはりこのM・Cそのものを、先ほどから何回か御説明ございましたが、そのM・C美原を美原区のやはり歴史、文化、郷土資料、そしてまた観光といった、そういう多機能にわたるそういう拠点施設として今後やはりつくり変えていく必要があるのではないかとこのように考えております。そういうことで本当に我々もこの議論を始めた矢先でございますが、そういう観点で今日、御審査いただいた結果を尊重してこのM・Cの活性化というか、より郷土の歴史というものを学べる場所である、そして美原の歴史文化、そして観光というものを発信できるこの施設としてしっかりと内部的にも検討を進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

(下村委員)

私もコメント的なものになってしまうかもしれないですけども、例えば私も世界のいろんな博物館が大好きでよく行くんですけども、ものすごくやっぱり展示に関しては工夫がなされています。たとえどんなに小さな地域の村の博物館というか、展示しているようなところでもすごくおもしろいですよね。物によってはもちろんハンズオンなんてできないものも、本物は触れないけれども、それに似たようなもので子供たちが実際に触れるとか、何か感触を味わえるとか、そういうふうなことがなされていたりとか、それから学芸員さんがお二人というのは本当に大変だと思うんですね。すごく学芸員としての仕事以外のことをさまざまにしないといけないような状況に陥っておられると思います。これは人がいなくてお金がなくてというのはどこも同じような状況なので、こういう時こそ、やっぱりNPOの方たちの助けというか、コラボレーションみたいな形もあるでしょうし、それからこの美原の歴史のファンというのが必ずおられるはずなので、そういう外からのファンの力も総動員した上でのいろいろな魅力的な展示づくりというのが、プログラムづくりというのがこれから考えていかないといけないところなのかな。もう中だけで考えていても人も足りないし、知恵もなかなか集まってこないかもしれないですから、外の人に来てくなるようにするためには外の人にどうしたらいいかというのを聞くというのも一つのアイデアだと思いますので、その点も含めてこれからさらにというふうに思いました。

(宇澤委員)

間違っているかどうか教えていただきたいのですが、堺市は仁徳陵も含めて世界遺産の今いろいろ御準備なさっていらっしゃるんですよね。この黒姫山古墳とこのみはら歴史博物館、これはどういう、何か関係はどういう位置づけになっているか教えていただけますか。

(所管課)

現状ではいわゆる世界遺産の範囲の中という言い方が適当なのかどうか分かりませんが、世界遺産、堺の場合は百舌鳥古墳群ということで来ておりますけども、その黒姫山古墳自体は百舌鳥古墳群の中には含まれない、あるいは羽曳野のほうにございます古市古墳群、こちらのほうにも含まれない、ちょうど中間地点に位置するような古墳でございます。ただ、先ほどちょっと申しましたように、そこから24領も甲冑が出てきたということの意味の大きさを、なかなか今までは問われてきてなかったようなところがございます。その研究されている先生の申し上げることによりまして、やはりそういったことを改めて再検討していく中で、今すぐ世界遺産云々という話では、一足飛びではないのですけれども、そういったところと結びついていく方策みたいなものも考えていけるのではないかと御意見はいただいております。よろしゅうございますでしょうか。

(司会)

はい。大体一巡して、いいでしょうか。

僕もお伺いして拝見したのですが、一つは最初のコンセプトが、10年前におつくりになったコンセプトですね。これがいろいろ展示というのはよくできておると思うのですが、コンセプトが今ちょっと問われているかなと。先ほども御意見ありましたが、例えば小中学生の歴史教育というか、中にどういうふうに活かしていけるのかなというか、してもらいたいなというような御意見もあったし、それから今現代的な関係で、地域を知るところでのミュージアムみたいなものがあり得るかとか、そういう御意見もあったと思うのですね。その点で、最初つくって来年で10年だそうですが、という意味では10年経ってどうだったかなというのは一つあって、ただ鋳物師の世界ってやっぱり遠いよね、市民からすると。いきなりほんと鋳物師が来てみんなへえっと、全然継承性がないわけじゃない、人としてはね。そういう意味ではそれをどういうふうに繋ぐかというのが一つのポイントかなという感じがするのですね。その鋳物師自身はすごくおもしろいと思うのですよね。そのおもしろさと現代的なものをどうやって繋ぐか、或いはそのほかに他の要因とどうやって繋ぐのか。そういう意味ではインフラですから、その建物自身とインフラをどういうふうに活かしていくのかという発想が必要だということをいろいろおっしゃったと思うのですね。特にこの予算のことを考えますと、まあ、職員4人、全部で8名ですか、というのだと、もうちょっと何かできそうでないかと、ただ一方で結構忙しい話もあってね。一応分裂する話ですけど、その辺は何か御検討があってもいいかもしれない。それで指定管理者の話が出ましたよね。指定管理者の件と、あり得ると、特にホールの関係でいうと、その連携してやるような、540席ですか、と260、それをうまく使えるように、そういう意味じゃない、指定管理者、つまり同時の指定管理者になるのかな、そうすると、予定しているの。ただ、そのとき問題なのはやっぱりその学芸員さんの位置づけというか、これは一番例えば博物館なんかの、美術館なんかの指定管理導入について一番問題になると思うのですね。その辺については何か、もしもそうなった場合何かあります。

(所管課)

まだそこまでは内部的にもこれからの議論ですけれども、要するに、本来大規模な博物館での全面的な指定管理というのはあんまり例がないだろうと思うのですが、本来的に学芸員が不足していると、そういう中で一部展示業務を指定管理に出したり、さまざまなその関連事業を出したりという考え方があるだろうと思います。ただ、学芸員が2名ということで、非常に今世界遺産に関する登録作業の中で学芸員が非常に必要になってきておりますので、全体的な見直しの中で配置計画をしていかなければならないだろうと。まずはやはりこの美原のその機能そのもの、どういう機能になるかという推測した上で学芸員をどう配置するかという、その議論を早々に進めていかなければならないと考えております。

(司会)

その辺は既にいろいろあってされていますもんね。御経験を少し収集していただいて、よりよい方向でやっていただけたらと思います。

それから、そういう点では、先ほどネットワークの話がありましたね。それは何か具体的にネットワーク化の議論はあるのですか。

(所管課)

泉州紀北ミュージアムネットワークというのは、もうかれこれ20年近く前に立ち上がったのですが、今まで活動の大きなものとしては例えばスタンプラリーのようなものを、当館も含まれて当然ありますけれども、そういうものをして、それでそれなりに、これは官民のさまざまなジャンルの博物館が関連しておりますので、官の場合はなかなか例えば記念品を出すとかというのは難しいので民の博物館にお願いして、そういった記念品なんかをスタンプラリー



一の際に出すとかいうような形で数年間やったりしております。  
それから現在は幾つかのブロックに分けて、例えば泉北ブロック、泉南ブロック、紀北ブロックと、4つぐらいの大きなブロックに分けて、そのブロックの中で展覧会を回していくことができないだろうかというふうなことの試みの部分は今現在模索しております。だから、そういう意味では当館なんかもそういう中でどういうことができるかというのは、まだまだどの館にしましてもそのあたりまだ宿題状態でして、一つの課題でしかないというところではありますけども、広域連携をどのような形で持っていけるかという一つのありようとして具体的には展覧会を共同企画、あるいは共同開催して回していくというふうなところが今のところ視野に入れた部分でございます。

(司会)

何かそれで検討委員の方から、まだちょっと時間がありますが、ありますか。

(赤津委員)

今の点いいですか。

私、泉州紀北ミュージアムネットワークというのは、ちょっとそういうスタンプラリーというイメージではなくて、それぞれの博物館が、他の博物館はまたちょっと性格が違うのかもしれないですけど、地域の歴史や文化についての一定の見識であるとか、知的な財産、知的資産っておありになると思うのですね。そういうのは相互交流すると、例えば河内鋳物師の歴史についても、ここを点だけで深めてたら見えないような事というのが、古代における経済的な交流であるとか、物資、人と物の流れというのがどうだったのかというのは、私、歴史学者でもありませんし、コンサルでもないの、全く素人の感覚ですけども、環境なんかの分野から見ている限りでは、今まで権力者の歴史だったところが市井の人々の歴史であったり、経済の歴史であったり、経済産業の歴史であったり、経済産業がその時々環境的な制約の中で衰退と隆盛を繰り返す、そういうところに視点が移っているように私には見えるのですね。なので、そういうことについては、このネットワークという中に入っていないのかなと、ちょっとよくわからなかったのですが、そういうことあまりお考えではないですかね。

(所管課)

先ほども言いましたように、かれこれ20年近くそれぞれ共同でスタンプラリー等やってきましたけど、今先生がおっしゃられたような視点というのは個々の館としては持っていたとしてもお互いにいわゆる議論の出し合いの場には上がってはきていないのが現状です。私もしばらく博物館から離れておりましたので、ここ数年、また復帰した形でそういったところにも参加しているのですが、離れてから約10年間の間にそんなに大きく進化したなという感じは持たなくて、いずれにしてもただ泉州、和歌山を含めての地域というのはどうしてもなかなか、文化観光的にも注目されにくい面があるので、とにかくそういう底上げをどうやったら図れるかというところがまだ点検していく課題というのが現状かと思えます。ですから、もっと成熟して行けば、今先生がおっしゃった部分を切りこんでいけるような、それこそ共同企画展なんかも開催できるのはとっても嬉しい話だと私的には思っています。答えになっていないかもしれませんが、申し訳ございません。

(宇澤委員)

梵鐘はいくつあるんですか。

(所管課)

いくつと言いますのは。

(宇澤委員)

博物館。

(所管課)

現在、展示室に企画展で借用したものですけど、一つ先ほどお見せしたものと、複製品ですね、レプリカと、最近の平成の梵鐘と一応3つ。

(宇澤委員)

子ども達が音なんか聞いたらいろんな興味、関心をお持ちになるというので、何かもう少し工夫が必要ではないかなと。確かに鳴りますけど、そういういろんなアイデアといったらおかしですが、例えば小中学校の音楽の先生と一緒に仕事をするとかですね、もう少し皆さん方が

関心を持つようなアイデアみたいなものをおつくりになったらいかがかと。差し出がましいですが、そんな気がします。

(吉田委員)

コメントですが、先ほど先生方から関連の話があったと思うのですが、文化とかいうのはパトロンがいるわけですね。大陸、ヨーロッパなんかをイメージしていますが、そういう地域であれば、言ったら悪いですがある程度階層的な社会とって、お金持ちはお金持ちなりの社会的意義を果たすということがあるのですが、日本は変に平等的な社会になっていますから、そういうパトロンがないから、最近他の政策事例でも問題になってくることがありますけども、パトロンがいないから役所がやっている状況ですね。そのところを役所で働いている方自身が踏まえられて、今役所でやっているけどできたらコミュニティも参画してもらってやってもらいたいってこともメッセージとして発信していくというの、やっていてもらいたいというふうに思います。あと、役所の仕事で一番大事なのは経済学でいうところの外部性の処理ですけど、外部性とは何かというと、経済主体の行動が他のものに影響を及ぼす、その外部性を持っているような財とかサービスについては市場を使ってさばけないでしょ。だから役所が存在しているのですが、これから考えますという話をされていたのですが、是非とも考えてもらいたいですね。ちょっと面倒くさい事をやるというのが、役所の存在意義なので、もしそういうことをちょっと緩くやってしまうと、とたんに、もういらんと言われる話になりかねないので、その辺をお願いしたい。まとめると、そういう歴史、文化というのは、本来はコミュニティというものが担うべきですが、日本人はそういう感覚が無いので、そこをちゃんと踏まえた上で役所が先導となってやっていてもらいたいなど、できれば広げていてもらいたいというのが一つと、それと外部性というのを常に意識してやっていただきたい。それをやらなかったら短期的な視野で物を考えるやつに要らんと言われるふうになりますので、そういうことをして行ったらたぶん社会が根腐れを起こしていきますので、そういう領域の仕事をしていると、偉そうに言っていますが、理解されて頑張ってもらいたいと思います。

(司会)

はい。ですから、もう一度戻ると美原の歴史文化の紹介、発掘ということ含めて根っこにあるので、その辺は共通の理解となっていると思います。

それでは、みはら歴史博物館管理運営事業の審査をお願いしたいと思います。審査員の方はお手元の審査シートの事業番号、審査員氏名、事業名を御記入いただいて、今後の方向性について事業の方向性と公金投入の方向性の視点から審査いただいて、該当する欄に1カ所だけ丸を御記入をお願いします。

事業の方向性として、廃止を選択された方は下の廃止の事業のところにチェック、若しくは記入をお願いします。廃止以外を選択された方は改善策についてチェック、若しくは記入をお願いします。

なお、検討委員の皆さまもお願いします。それでは、5分程で。

#### <審査シート記入>

(司会)

では手のすいた審査員の方から御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

大体議論は出尽くしたかな。

はい、どうぞ。

(審査員)

幸いなことに大阪府は博物館がいっぱいありまして、府立の博物館とか市立博物館。大体、どの博物館もある周期でかなり講演会をちゃんとやるものですから、まあ例えば近つ飛鳥にしる、弥生博物館にしる、その都度私は大体出かけるから、年にそれぞれ三、四回行くのですが、みはらだけはなかなかそういう講演会にぶち当たる機会がないものだから、それでも年に1回ぐらいは行っているのですが、ぜひ先ほどから場所がわかりにくいとかいろいろありましたけども、やはりそういう集客というとおかしいけれども、特にああいう甲冑に関したような講演会とかやれば、かなりの人を、250名も入るような立派なホールもあるのなら、そこを満杯にするようなことをしかけていただければもっともっと賑やかになるのではないかと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

(司会)

サポーターズクラブというのがあるといいな、サポーターズクラブ。

(所管課)

はい。

(司会)

そのほかございませんか。

じゃ、この辺で一応打ちだめにおきましょう。どうもありがとうございました。

あと集計が出るのをちょっと待ちましょう。

集計が出ました。

|        |        |                  |    |       |       |  |
|--------|--------|------------------|----|-------|-------|--|
| 今後の方向性 | 事業の方向性 | 拡充               |    | 1 (2) | 3 (3) |  |
|        |        | 現状維持             |    | 2     | 6     |  |
|        |        | 縮小               |    | 3     |       |  |
|        |        | 廃止               |    |       |       |  |
|        |        | ゼロ               | 縮小 | 現状維持  | 拡大    |  |
|        |        | 公金投入の方向性 (人件費含む) |    |       |       |  |

左：審査員 (右：検討委員)

事業の方向性としては現状維持が合計で8で、公金投入の方向としては縮小が足すと6。それから、ただ主な意見としては現状維持で現状維持か、6というのが一番大きいですね。ただ、拡充のほうも縮小の傾向、公金投入縮小するけれども内容的には拡充しなさいと、こういう意見があります。それから公金のほうは現状維持だけでもなお拡充してくださいと、こういう意見もありますということですね。ですから、幸いに廃止の意見はありませんので、現状以上に頑張ってくださいということだと思います。ですから、公金の使い方はきちんと考えていただきたいと、こういうことでしょうか。どうもありがとうございました。